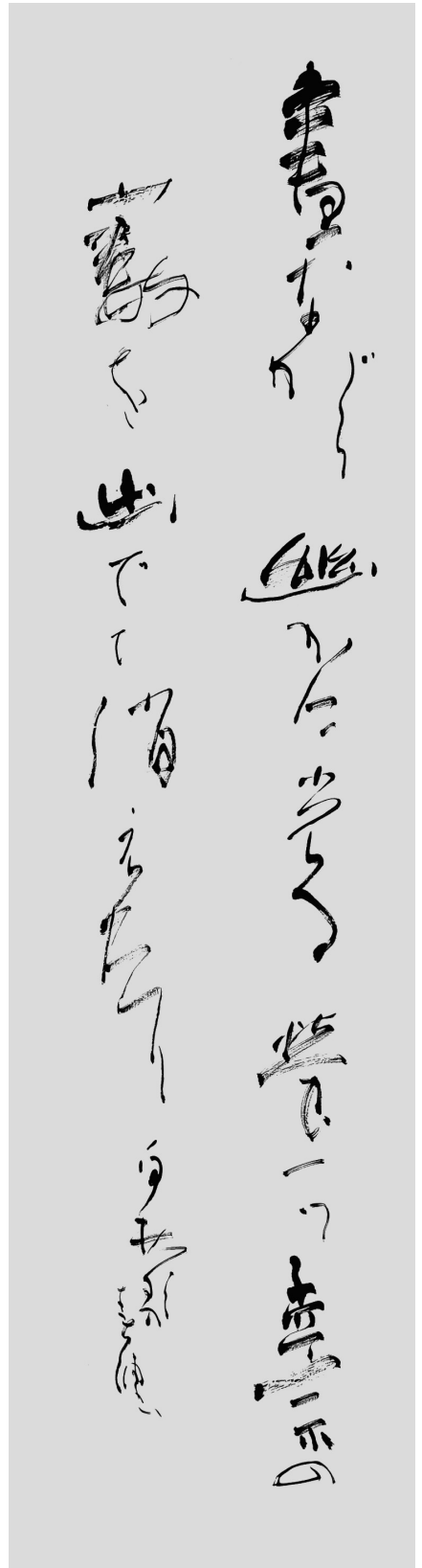


6月25日正午必着

明石春浦先生書



畫ながら幽かに光る螢一つ 孟宗の藪を出でて消えたり (北原白秋)

明石幸子書



春塘雨過波紋亂。

花塢風回蝶翅香 (袁宏道)

春の池塘花塢。



夜半樟亭驛 秋人起望鄉  
月明何所見 潮水白茫茫

(白樂天)

樟亭驛は杭州の銭塘江畔にあつて、觀潮の名所樟樓あり。愁人は旅人、ここでは作者。作者が杭州の役人時代の作か。白茫茫―月光にかすむ。故郷は遙か、望むに由ない。眼前ただ月明に白茫茫たる水面あるのみ。

### 条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

柳結濃陰 (黄淮)

柳濃陰を結ぶ

夏は柳が茂りて濃き蔭をなすのである。

水繞湖邊樹 花垂石上藤  
長來寺前坐 不識寺前僧

(李東陽)

水は繞る湖邊の樹 花は垂る石上の藤  
長く寺前に來つて坐するも 寺前の僧を識らず

湖のほとりに樹が茂り、石上をはう藤に花が咲いている。長い間、寺で座しているが、寺の僧のことは知らない。

廬嶽隱者 (杜荀鶴)

廬嶽の隱者 杜荀鶴

見說來居此 未嘗離洞門  
結茅遮雨露 採藥給晨昏  
古樹藤纏殺 春泉鹿過渾  
悠悠無一事 不似屬乾坤

見說す 來りて此に居り 未だ嘗て洞門を離れず  
茅を結びて 雨露を遮り 葉を採つて 晨昏に給す  
古樹 藤の纏殺し 春泉 鹿過ぎて渾る  
悠悠として 一事無し 乾坤に屬するに似ず

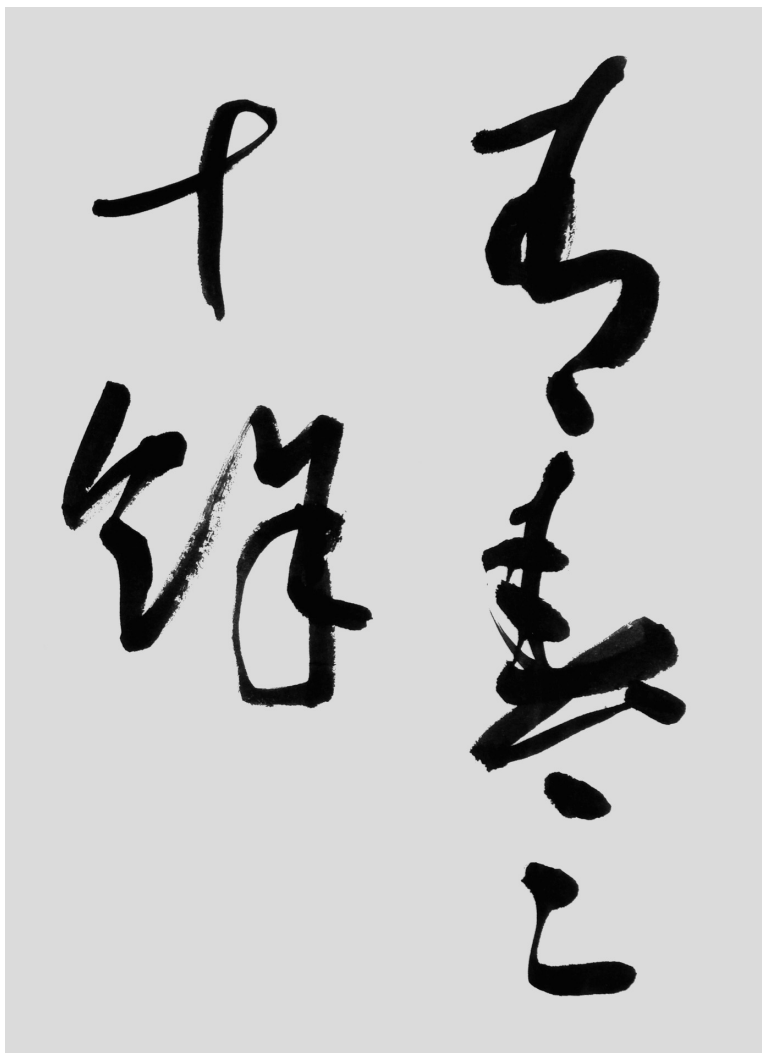
より來りうすれて消ゆる 水無月の雲たえまなし 富士の山邊に (若山 牧水)

十餘 青春三

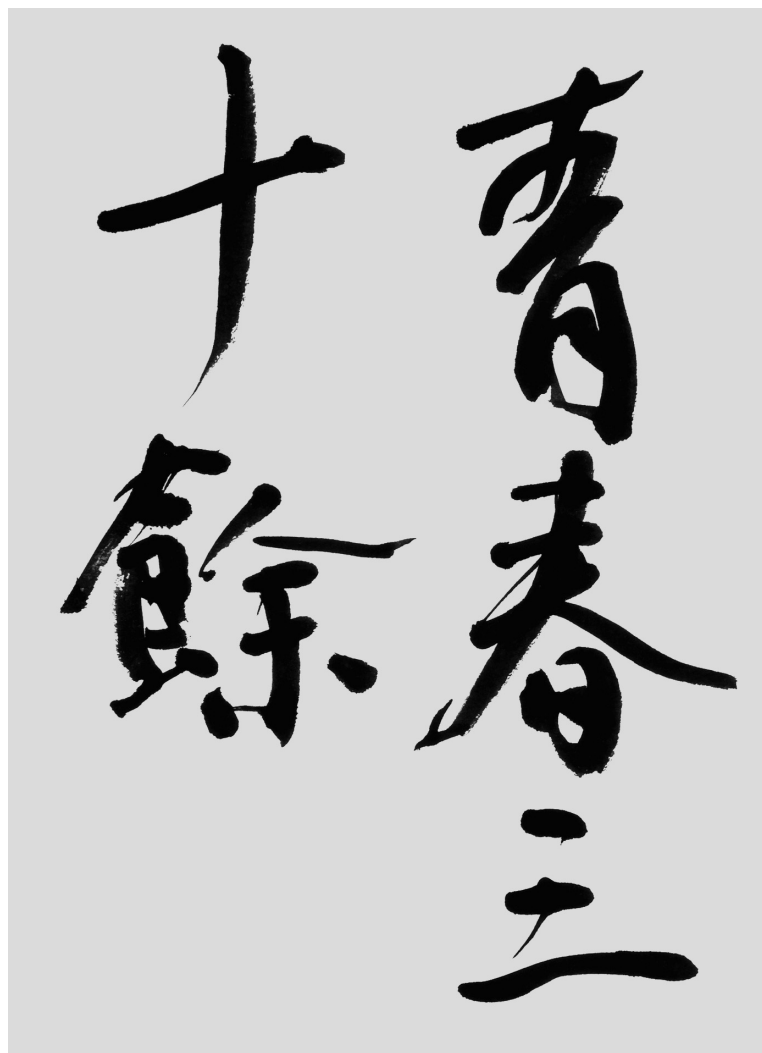
※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

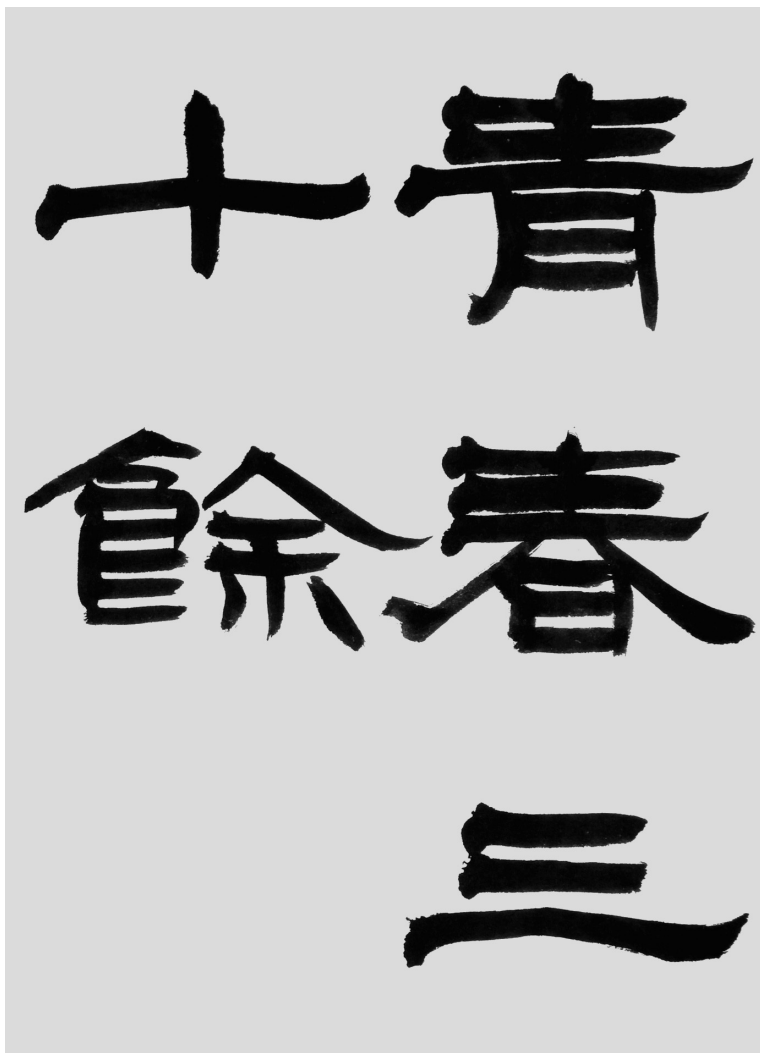
※課題A(楷書)と課題B(五体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。



草書



行書



隸書



行草書

青藝三十餘  
十餘

篆書

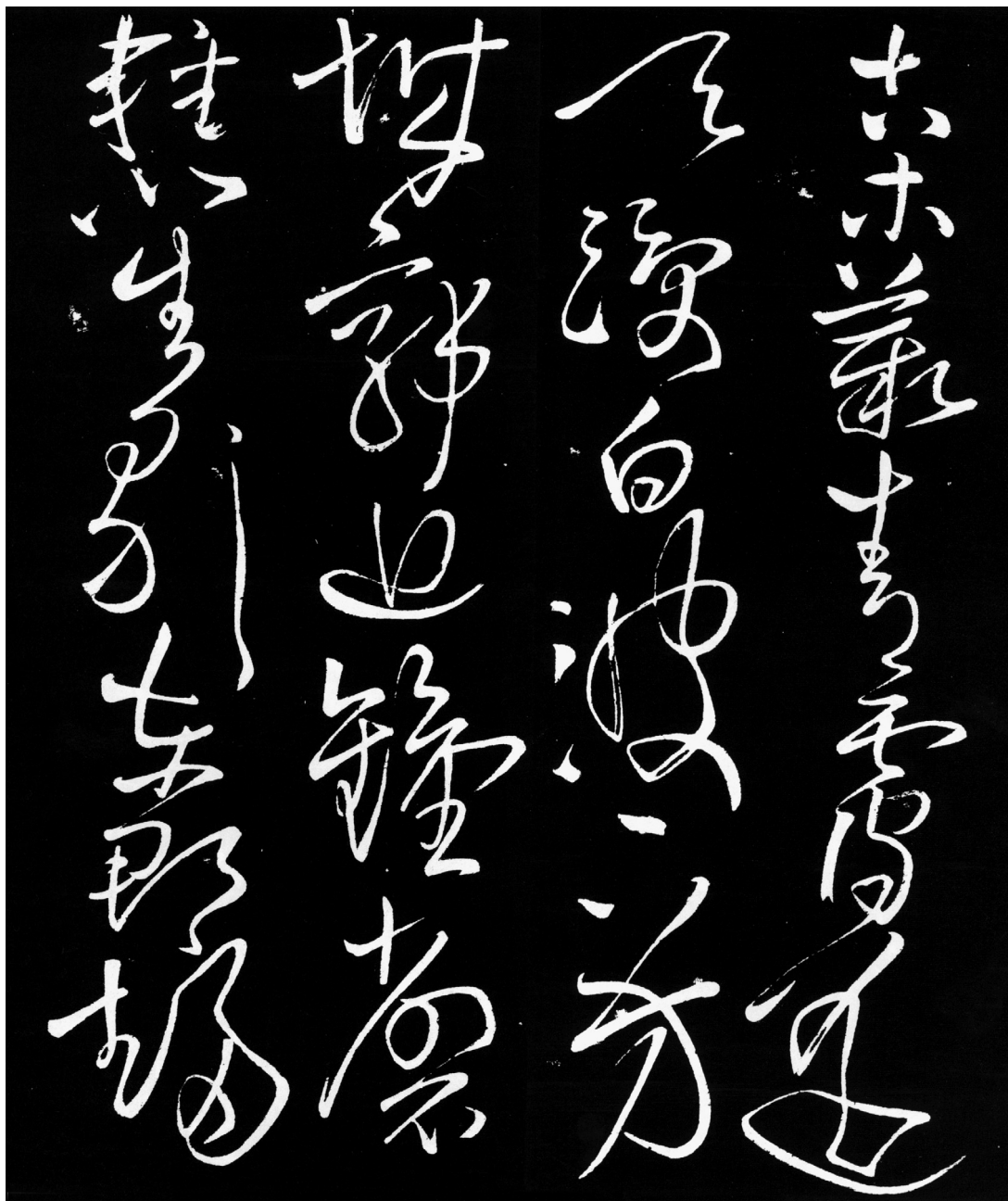
送曹椅 司空曙

青春三十餘  
衆藝盡無如  
中散詩傳畫  
將軍扇賣書  
楚田晴下雁  
江日暖多魚  
惆悵空相送  
歡遊自此疎

曹椅を送る 司空曙

青春三十餘  
衆芸 尽く如く無し  
中散の詩は画を伝え  
將軍の扇は書を売る  
楚田 晴れて雁を下し  
江日 暖かくして魚多し  
惆悵として 空しく相送る  
歡遊 此れ自ら疎ならん

齡三十余りの若さを以て 諸芸はみな及ぶものがない  
嵇康のごとく、その詩は絵画に描かれて伝えられ 王羲之のごとく、扇に書かれた文字が売られる  
楚の地の田野は晴れわたって雁が下りたち 江のほとりに日は暖かく、魚が数多く泳いでいる  
悲しみ嘆きつつ、さびしく君を送る これからは楽しく遊ぶことはめったになかろう

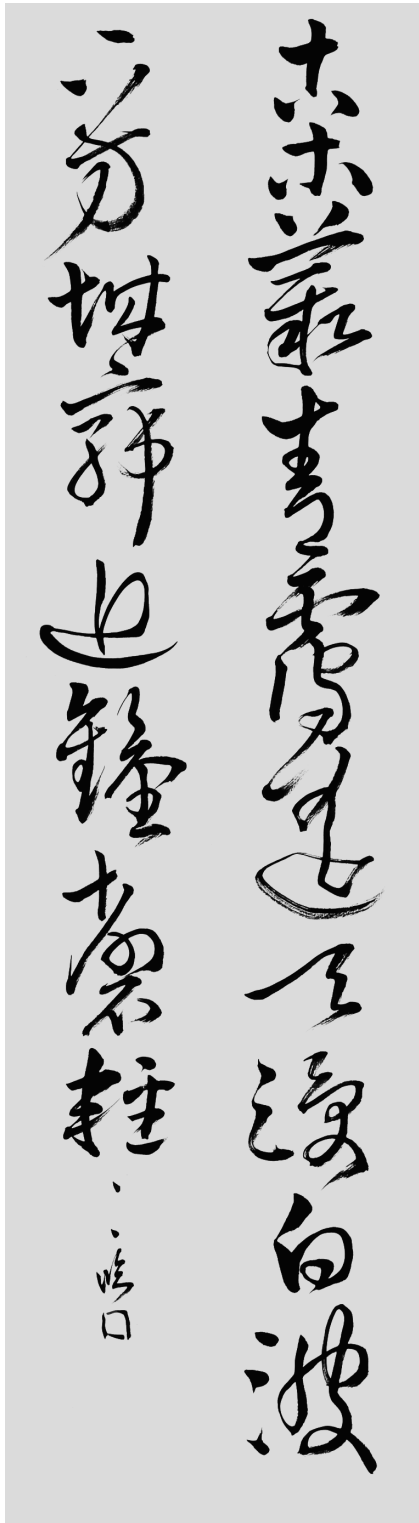


古木叢青靄、遙

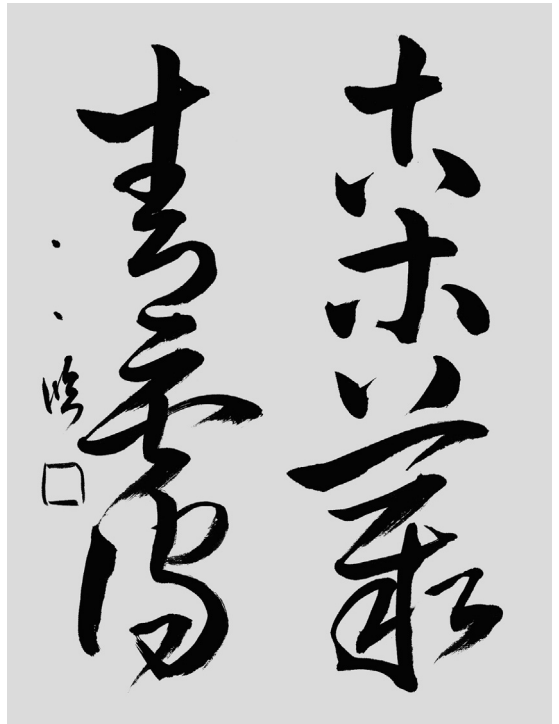
天浸白波。下方

城郭近、鐘磬

雜笙歌。東郡趨



古木靑靄叢り、遥天白波浸す。下方城郭近く、鐘磬（笙歌を）雑ゆ。



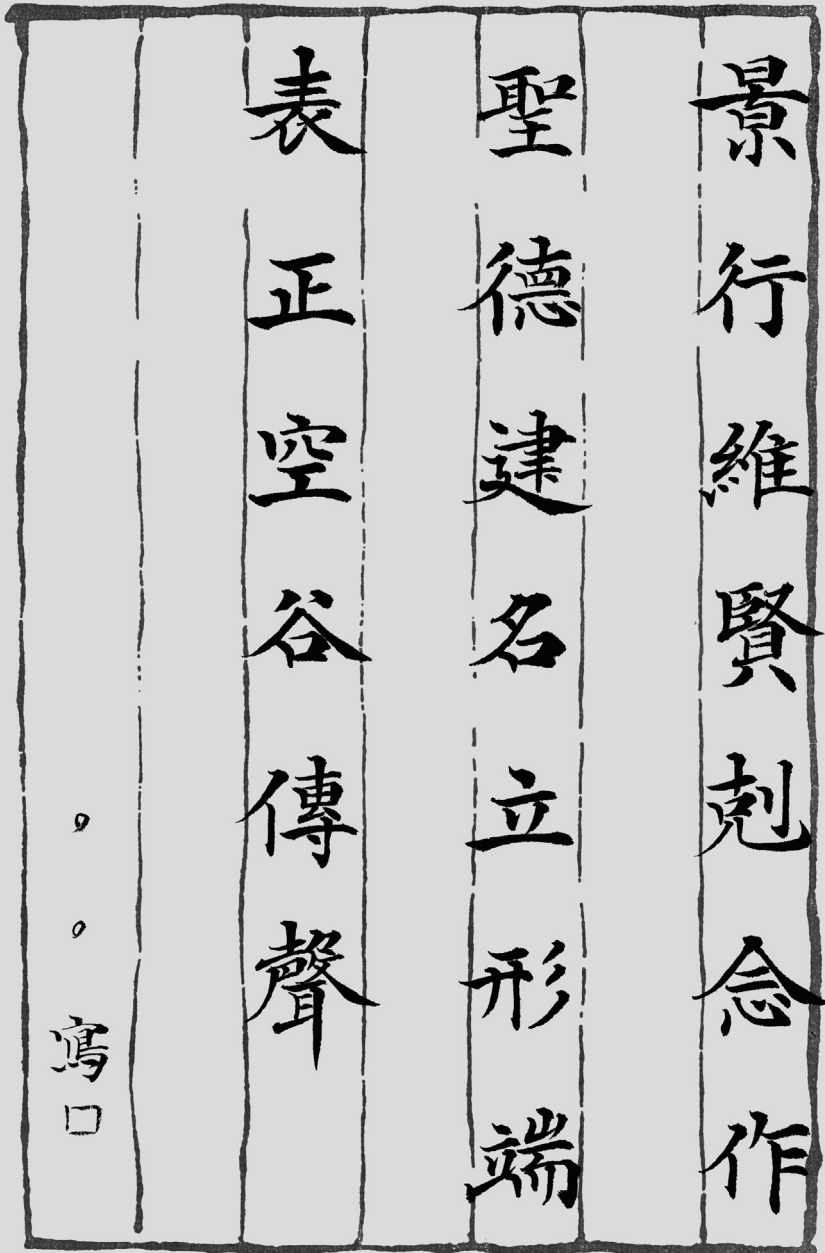
古木靑靄叢り、

明末清初 王鐸・擬山園帖 第二

王鐸は明の萬曆二〇年（一五九二）河南省孟津に生まれる。明朝末期の天啓二年（一六二二）に進士となり、明が滅亡した後は清朝に仕え、「明史」編纂の副總裁などをつとめた。順治九年（一六五二）礼部尚書となったが、その年の三月病のために郷里で没した。字は覺斯（または覺之とも書いた）。号は高樵、癡庵、五岳道人など数多い。明朝の遺臣でありながら清朝に降ったことによって節義に欠ける者として白眼視されたが、彼のような唯美の世界に耽溺した人間としては、そうしたことにこだわらず自由な行動をとったのではないかとされている。

明末から清初にかけては政治的にも社会的または民族的にも混沌とした時代で、書壇においても革新的な傾向におもむきつつある時期であった。そうした中から董其昌や王鐸らを中核として伝統的な書道からはなれ、新しい理念に基づく書の美しさを求めようとする風潮が生まれた。

王鐸は詩文書画をよくしたが、なかでも書は特に名高く、二王を中心に晋唐の古法帖の臨書に終生心血を注ぎながらも、彼独自の自由闊達な連綿行草の世界を作りあげていった。この書は擬山園帖全十巻の第二に見られるもので、鋒先の先まで力がこもり、少しのよどみもない自由奔放な運筆は見事というほかはない。（春濤）



玄和細字用紙

※用紙サイズ：半紙 $\frac{1}{2}$ タテ書き（毛筆）・玄和細字用紙（25枚綴り ¥550 | 税込、送料別）

西 墨濤先生書

露のおと  
たえまなくして  
この山の  
あかつきちかく  
なり  
けらしも

あつちかく  
なり  
けらしも



露のおと  
多  
万  
奈  
たえまなくして  
この山の  
能  
あかつきちかく  
可  
支  
運  
可  
なり  
奈  
利  
尔  
けらしも  
毛  
(古泉千樞)

松永翠舟先生書



ふく  
服

しょく  
飾

中学一年

雨宮春聲先生書



い  
医

りょう  
療

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



しん  
信

よう  
用

小学五年

榎戸春龍先生書



うた  
歌

こえ  
声

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

6月25日正午必着



ゆみ  
弓

や  
矢

小学三年

藤田幸春先生書



じょ  
助

そう  
走

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



た き 小学一年・幼年

明石幸子書



小 石 小学二年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

て遠くまでとどく  
歌声は草原をこえ

小学五年

長い年月をきざみ  
続けてきた古時計

小学六年

努力を続けること以外  
に勝利への道はない

中学

後に人間を求めらる  
真の芸術は作品の背

一般(級位)

夕やみのほのけき庭にうきいでてかすかにゆるく  
月見草の花(相馬御風)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

の	く
し	れ
い	よ
ぬ	ん
り	で
え	
	た

幼 年

し	エ
い	ン
	ピ
も	ツ
ち	の
か	
た	正

小学一年

ふ	大
っ	つ
て	ふ
き	の
ま	雨
し	が
た	

小学二年

れ	川
て	が
湖	せ
が	き
て	止
き	め
た	ら

小学三年

リ	ゆう
ス	びん
で	切
考	手
え	は
出	イ
さ	ギ
れ	
た	

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。